

学会記事	??
第 27 回通常総会報告	
大学基礎講座・チュートリアル開催通知	??
チュートリアル「マルチメディア入門」開催	
教員募集	??
慶応義塾大学理工学部情報工学科教員募集のお知らせ	

研究会開催通知・論文募集，チュートリアル開催通知，教員募集（教育機関以外の人材募集の場合は事前にご相談下さい）へ投稿される方は，下記宛に原稿をお送り下さい．電子メールの場合は，件名を“JSSST newsletter”としてテキスト形式をお願いします．紙面の都合により無断で記事の一部抜粋や割愛をさせていただくことがありますので予めご了承下さい．原稿締切は 2，5，8，11 月の 25 日，掲載は翌々月発行の「コンピュータソフトウェア」です．

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル内

日本ソフトウェア科学会 ニュースレター係

E-mail: jssst_newsletter@jssst.or.jp

学 会 記 事

第 27 回通常総会報告

第 27 回通常総会は，2010 年 6 月 9 日（水）午後 6 時～8 時，東京大学山上会館 001 会議室において開催された．出席者は，331 名（うち委任状は 307 名，定足数は 156 名）．柴山悦哉理事長を議長に，第 1 号議案，第 2 号議案を審議し，決算が適正であるとの杉村領一 2009 年度監事の報告を受けて，満場一致でこれらを承認した．続いて第 3 号議案，第 4 号議案について審議し，これらも満場一致で承認した．引き続き，基礎研究賞（第 2 回），論文賞（第 14 回），ソフトウェア論文賞（第 2 回），および高橋奨励賞（第 26 回）受賞者の表彰に移り，総会に出席の各氏に賞状と副賞が手渡された．さらに，2009 年度に設けられた名誉会員制度に則り，総会に出席の名誉会員各氏に名誉会員記が手渡された．最後に，2009 年度で退任した理事に理事長から礼状が手渡された．総会終了後，簡単な懇親会をもった．

承認された議案を以下に示す．

【第 1 号議案】2009 年度事業報告

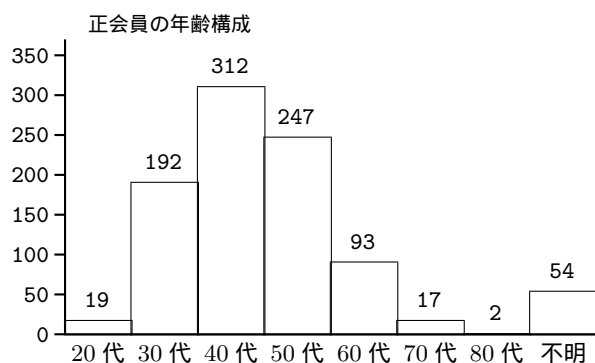
1. 会員

2010 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである．

正会員	936 名（うち海外在住 2 名）	団体会員	7 団体
学生会員	161 名	賛助会員	8 社（16 口）
準会員	24 名		

2008 年度末に滞納者を大量除名した後，正会員数は 1000 を切っている．2008 年度末の正会員数は 978 名であり，2009 年度末にはそこから 42 名減少したことになる．

正会員の年齢構成をつぎのグラフに示す．50 才を越える正会員が 40%程度，40-49 才の正会員が 35%程度，30-39 才の正会員は 20%程度である．なお，20 代の正会員が少ないのは，学生会員になっていることが多いためであると思われる．



2. 会議の開催

2.1 総会（第26回）

日 時： 2009年6月11日(木) 18:00～20:00

場 所： 東京大学山上会館 001 会議室

出席者： 344 名（うち委任状 316 名，定足数 163 名）

議 案： (1) 2008 年度事業報告 (2) 2008 年度決算報告
(3) 2009 年度事業計画 (4) 2009 年度予算

湯浅太一理事長を議長に，第 1 号議案，第 2 号議案を審議し，決算が適正であるとの菅原俊治，杉村領一 2008 年度監事の報告を受けて，満場一致でこれらを承認した．続いて第 3 号議案，第 4 号議案について審議し，これらも満場一致で承認した．引き続き，2009 年度役員紹介の後，基礎研究賞（第 1 回），論文賞（第 13 回），解説論文賞（第 2 回）および高橋奨励賞（第 25 回）の表彰に移り，総会に出席の各氏に賞状と副賞が手渡された．最後に，2008 年度で退任した理事に理事長から礼状が手渡された．総会終了後，簡単な懇親会をもった．

2.2 理事会

第 238 回（2009-04-16）から第 244 回（2010-03-17）まで 7 回開催した．2009 年度の理事及び監事は次の通りである．

理事長 湯浅 太一

理 事 大沢 英一 大和田勇人 亀山 幸義 河内谷清久仁

紀 信邦 佐藤 周行 柴山 悦哉 高橋 和子

橋田 浩一 平田 圭二 松本 健一 村田 真

吉田 健一

監 事 菅原 俊治 杉村 領一

2.3 評議員会

第 24 回（2009-09-17）評議員会を島根大学松江キャンパスにて開催し，学会運営について討議した．2009 年度の評議員は次の通りである．

阿草 清滋 雨宮 真人 井田 哲雄 伊藤 貴康 稲垣 康善

井上 克郎 牛島 和夫 江口 和俊 大野 豊 大野 義夫

大堀 淳 大蒔 和仁 落水浩一郎 笥 捷彦 片山 卓也

佐々 政孝 佐藤 雅彦 武市 正人 田中 英彦 田中 譲

玉井 哲雄 近山 隆 土居 範久 東倉 洋一 都倉 信樹

所 真理雄 中島 震 中島 秀之 中田 育男 西田 豊明

疋田 輝雄 深沢 良彰 二木 厚吉 二村 良彦 古川 康一

溝口 文雄 宮本 衛市 村岡 洋一 森下 真一 山本 喜一
米崎 直樹 米澤 明憲

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 297 回 (2009-04-10) から第 305 回 (2010-03-12) まで、9 回の編集委員会を開催し、機関誌「コンピュータソフトウェア」第 26 巻 2~4 号および第 27 巻 1 号を発行した。これらは全て、サイバー増大号であり、冊子体とサイバーページ (電子出版) から構成した。また「プログラミングおよびプログラミング言語」(第 26 巻 2 号)「ソフトウェア論文」(第 26 巻 4 号)「インタラクティブシステムとソフトウェア」(第 27 巻 1 号) の 3 回の特集を組んだ。

平成 21 年 6 月 4 日に投稿規定等を改正して、新しい査読種別としてレター論文を新設した。また、それに伴い小論文は廃止した。レター論文の狙いは、研究会等からコンピュータソフトウェア誌に投稿しやすい査読種別を設けることで、コンピュータソフトウェア誌への投稿数を増やすことにある。

ソフトウェア論文については、第 3 弾のソフトウェア論文特集 (2010 年 11 月号掲載予定) を募集し、14 編が投稿された。

2005 年度から開始した読者モニタ制度をアナウンスし、応募者の中から選定された 7 名のモニタから機関誌および各記事に関するさまざまなフィードバックを得た。

第 14 回論文賞として、以下の 2 編を選定した。

- ・千代 英一郎: 「宣言的なコンパイラ仕様記述を支援するための識別子にもとづく中間表現」, Vol. 25, No. 3 (2008), pp. 113-134. (PPL2007 推薦論文)
- ・権藤克彦, 川島勇人, 今泉貴史: 「TBCppA: 追跡子を用いた C 前処理系解析器」, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 105-123. (FOSE2006 推薦論文)

また、第 1 回ソフトウェア論文賞として、以下の 1 編を選定した。

- ・中田 育男, 渡邊 坦, 佐々政孝, 森 公一郎, 阿部 正佳: 「COINS コンパイラ・インフラストラクチャの開発」, Vol. 25, No. 1 (2008), pp. 2-18. (「最新コンパイラ技術と COINS による実践」特集)

2009 年度の編集委員会の構成は次の通りである。

編集委員長	本位田 真一				
副編集委員長	権藤 克彦				
編集顧問	上田 和紀	竹内 郁雄			
編集担当理事	亀山 幸義	平田 圭二			
編集委員	青木 利晃	明石 修	和泉 順子	伊知地 宏	
	岩崎 英哉	亀山 幸義	栗原 聡	胡 振江	
	河野 健二	沢田 篤史	住井 英二郎	関 浩之	
	滝本 宗宏	豊田 正史	中島 震	西崎 真也	
	番原 睦則	細部 博史	増原 英彦	松原 繁夫	
	真野 健	丸山 勝久	山本 章博	結縁 祥治	
	吉岡 信和				

3.2 企画委員会

第 1 回 (2009-06-08) から第 6 回 (2010-03-15) までの企画委員会を開催し、各種の企画にあたった。2009 年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長	橋田 浩一				
企画担当理事	橋田 浩一	松本 健一			
企画委員	青柳 滋己	網代 育大	緒方 淳	栗原 聡	
	來間 啓伸	杉木 章義	遠山 緑生	廣津 登志夫	
	廣海 緑里	前田 俊行	丸山一貴	南出 靖彦	
	吉岡 信和	吉川 隆英			
関西支部					
委員長	松本 健一				
委員	井垣 宏	内田 眞司	大平 雅雄	柿元 健	
	玉田 春昭				

3.3 大会

2009年9月16日(水)～18日(金)の3日間にわたり、島根大学松江キャンパスにおいて第26回大会を開催した。参加者は150名(正会員89名、学生会員51名、一般非会員5名、学生非会員5名)であった。プログラムの構成は、招待講演2件(河野健二氏、寛捷彦氏)、一般登壇発表68件(特別セッション「情報爆発」5件を含む)、ポスター・デモ発表7件のほか、特別企画「オープンソースソフトウェア内輪話」であった。

また、大会前日の9月15日(火)に、大会併設企画として「PPL Summer School 2009」(プログラミング論研究会主催)、チュートリアル「ウェブアプリケーションフレームワークの光と影」(ソフトウェア工学の基礎研究会主催)を開催した。

第26回大会の役員は次の通りである。

大会委員長	柴田 均 (島根大学)				
運営委員長	平川 正人 (島根大学)				
プログラム委員長	岩崎 英哉 (電気通信大学)				
プログラム委員	伊知地 宏	岩崎 英哉	大堀 淳	尾内 理紀夫	
	栗原 聡	胡 振江	河野 健二	光来 健一	
	権藤 克彦	笹田 耕一	Jacques Garrigue		
	沢田 篤史	志築 文太郎	鈴木 貢	立堀 道昭	
	塚田 恭章	西尾 信彦	廣津 登志夫	増原 英彦	
	八杉 昌宏	吉岡 信和			

講演論文集はCD-ROM (ISSN 1348-0901) で刊行した。

なお、高橋奨励賞は次の2件に与えられた。

- ・ 鶴川 始陽 (電気通信大学): 「複製に基づくインクリメンタルコンパクションを用いたガベージコレクタ」
- ・ Jacques Garrigue (名古屋大学): 「構造的多相性をもった言語の検証つきインタープリタ」

3.4 講習会

下記の大学基礎講座およびチュートリアルを開講した。

- (1) 「データマイニング技術」, 2009-09-04～05
- (2) 「ウェブアプリケーションフレームワークの光と影」, 2009-09-15
- (3) 「Androidによるユーザ参加型組み込みソフトウェア開発」, 2010-01-25
- (4) 「サービス科学・工学とは何か」, 2010-03-03
- (5) 「ウェブマイニングとセマンティック技術」, 2010-03-26

3.5 研究会

2009 年度は、次の 8 研究会が活動した。各研究会の主な活動は下記の通りである。

- (1) 「ソフトウェアシステム」研究会 (主査: 廣津 登志夫)
今後の活動の方向を検討
- (2) 「プログラミング論」研究会 (主査: 五十嵐 淳)
サマースクール (大会併設) 1 回開催 (2009-09-15)
ワークショップ 1 回開催 (2010-03-03 ~ 05)
コンピュータソフトウェア: PPL2009 論文推薦
- (3) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査: 大沢 英一)
合同ワークショップ&シンポジウム 1 回開催 (2009-10-28 ~ 30)
- (4) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査: 小池 英樹)
ワークショップ 1 回開催 (2009-12-02 ~ 04)
コンピュータソフトウェア特集号 (2010-02)
情報処理学会インタラクシオン 2010 協賛
- (5) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査: 権藤 克彦)
ワークショップ 1 回開催 (2009-11-19 ~ 21)
- (6) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査: 寺岡 文男)
ワークショップ 1 回開催 (2009-06-26 ~ 27)
コンファレンス 1 回開催 (2009-10-26 ~ 27)
- (7) 「ディメンダブルシステム」研究会 (主査: 河野 健二)
ワークショップ 1 回開催 (2009-07-14 ~ 16)
シンポジウム 1 回開催 (2009-12-14 ~ 15)
- (8) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査: 中島 秀之)
国際ワークショップ 1 回開催 (2009-5-12)
ワークショップ 1 回開催 (2009-08-13 ~ 15)

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった。

共催: 0 件 協賛: 6 件 後援: 2 件

3.7 広報関係

- (1) 財団法人京都高度技術研究所とホスティングサービス契約を継続し、WWW サーバおよびメールサーバを運用した。
- (2) 本学会の Web ページ (<http://www.jsst.or.jp/>) および会員メーリングリスト (jsst.members@jsst.or.jp) を通じて、会員への情報提供を行った。

3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して、基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた。2 年目にあたる 2009 年度は、以下の 2 名を選定した。

- ・ 中田 育男氏 (筑波大学名誉教授) 授賞業績: コンパイラに関する一連の研究
- ・ 外山 芳人氏 (東北大学電気通信研究所) 授賞業績: 項書き換え系における研究

2009 年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった。

湯淺 太一 (理事長)

本位田真一 (編集委員長)

木下 佳樹 菅原 俊治 萩谷 昌己 安村 通晃 山本 章博

3.9 名誉会員

日本ソフトウェア科学会名誉会員の選考手順等を明確化し、本会ではじめての名誉会員として、以下の2名を選定した。

- ・大野 豊氏（京都大学名誉教授）
- ・中田 育男氏（筑波大学名誉教授）

3.10 法人化

当学会の法人化の是非と実施可能性について検討した。まず、任意団体として当学会を維持することのコストとリスクが認識され妥当なコストで可能であれば法人化することが望ましいことが確認された。法人化可能性の検討の過程で、財務的・業務的に法人化のプロセスおよび法人化後の運営に耐えられる状況であることを認識する必要があるが、会計の取扱いや業務プロセスについて必要な対策を行えばそれが可能であることを確認した。対策の一部は予算が許す範囲で着手した（2009年7月から税理士と契約し、会計に関する助言を得ている）。法人化実施の際の目標法人格はその他の形態でコストがメリットを超えることなどから「一般社団法人」としている。

3.11 会員事務管理の委託先変更

2010年4月1日より会員事務管理の委託先を下記のように変更した。

名称：特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会

住所：〒112-8610 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204

お茶の水学術事業会内 日本ソフトウェア科学会担当

電話&FAX：03-5976-1478

Web サイト：<http://www.npo-ochanomizu.org/>

メール：jssst-info@npo-ochanomizu.org

3.12 岩波書店との契約見直し

機関誌発行についての岩波書店との契約は、ずっと以前のものがそのまま用いられていた。この契約は、会員が減少したこと、サイバーページに対応していないことから、実態に合わないものとなっていた。

理事会と岩波書店との交渉を経て、2010年度からの新しい契約を締結した。主な変更は、買い取り部数を削減したこと、それに伴って一部あたりの定価を上げたこと、本文ページ数が96頁を超えた場合に岩波が制作費用を請求できるようになったことである。この新契約によって、今後の経費が削減できる見込みである。

4. 選挙

2009年12月15日に公示された2010年度役員選挙（理事8名、監事1名）において、2010年1月22日まで候補の推薦を受け付けた。その結果、理事候補として8名、監事候補として1名の推薦があった。推薦を受けた全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、2010年3月20日までの期間の正会員による投票に付された。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた。正会員978名中308名（約31%）からの投票があり、結果は次の通りであった。

理事選挙（有効投票数 308）

亀山 幸義 (288) 胡 振江 (285) 河野 健二 (283) 権藤 克彦 (291)
高橋 和子 (281) 橋田 浩一 (288) 廣津 登志夫 (281) 村田 真 (283)

監事選挙（有効投票数 308）

中谷 多哉子 (296)

役員候補者選考委員 不信任票 (有効投票数 308)

井田 哲雄 (1) 井上 克郎 (1) 佐藤 雅彦 (1) 近山 隆 (0)

中島 秀之 (2)

この結果、理事候補、監事候補全員がそれぞれ理事、監事として選出され、2010 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日までの役員を務めることになった。また、役員候補者選考委員全員が信任を受けた。なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りであった。

選挙管理委員会

大和田 勇人 (委員長)

河内谷 清久仁 紀 信邦 佐藤 周行 柴山 悦哉 平田 圭二 松本 健一

【第 2 号議案】2009 年度決算報告

当期収入合計 20,975,086 円に対し、当期支出合計 22,971,046 円であり、単年度会計としては収支差額 -1,995,960 円である。これに前期繰越金 950,642 円を加算しても 1,045,318 円の赤字となるため、会員事務関連積立金を 110 万円取り崩しこれに充当した。支出においては、固定経費がその多くを占める。ここ数年、支出の額および構造に大きな変化は見られず、本学会が赤字体質であることが、財務状態の調査を依頼した税理士から指摘されており、これを解消するために抜本的対策が必要である。以下、各事業ごとにみていく。

まず、会員関係であるが、2008 年度末に行った連絡不通会員、会費長期滞納会員の大幅な整理によって会員数が実際のものに近い値になり、会員および機関誌関係の業務費の無駄が削減された。しかし、会員数が減少したため入会金・会費収入が予算を下回った。2008 年度には督促による過年度分の会費納入がかなりの額にのぼり、入会金・会費収入として 1780 万円を計上できたが、2009 年度は 1400 万程度にとどまった。大会事業については、開催地である島根県および松江市からの補助金を受けたこともあり、収支とも予算を上回った。講習会事業については、昨年度と同じ実施回数が企画されていたため同程度の収入を見込んだが、昨年度ほど盛況ではなかったため決算額は予算額を 101 万下回った。事務所整備費については、トナー交換を行ったためこの費用が発生した。

当該年度、税理士に依頼して財務状態の精査を行ったところ、郵便振替口座が、長期間取引がないため過年度において消滅していたことが明らかになった。調査の結果、事務所移転の際に住所変更を怠ったことが原因であることが判明した。当該口座の残金 206,765 円の扱いについて郵便局との交渉を行ったが支払いを受けられなかった。この件については、理事会の承認を得て雑損失として処理し、今後は監査時に精査することで再発防止につとめることを申し合わせた。

収支計算書 (2009 年 4 月 1 日から 2010 年 3 月 31 日まで)

・通常会計

(1) 収入の部			(2) 支出の部		
(単位: 円)			(単位: 円)		
勘定科目	予算額	決算額	勘定科目	予算額	決算額
入会金・会費収入	15,000,000	14,303,000	会員関係業務費	3,100,000	2,926,277
大会収入	1,060,000	1,406,000	研究活動費	200,000	200,000
機関誌収入	4,200,000	4,210,000	大会業務費	910,000	1,407,598

講習会収入	2,000,000	990,000	機関誌購入費	11,000,000	11,246,285
雑収入	100,000	66,086	機関誌業務費	400,000	216,072
当期収入小計	22,360,000	20,975,086	講習会業務費	600,000	666,985
			管理費	1,200,000	1,170,272
			事務所経費	1,400,000	1,541,279
			事務所整備費	50,000	51,113
前期繰越金	950,642	950,642	人件費	3,400,000	3,338,400
会員事務関連	1,100,000	1,100,000	予備費	100,000	0
積立金取り崩し			雑損失	0	206,765
当期収入合計	24,410,642	23,025,728	当期支出合計	22,360,000	22,971,046
			当期収支差額		54,682

・特別会計

(1) 収入の部 (単位：円)			(2) 支出の部 (単位：円)		
勘定科目	予算額	決算額	勘定科目	予算額	決算額
前期繰越金 (基礎研究賞基金)	2,502,206	2,502,206	基礎研究賞副賞	200,000	200,000
利子	0	5,714			
当期収入合計	2,502,206	2,507,920	当期支出合計	200,000	200,000
			当期収支差額		2,307,920

貸借対照表 (2010 年 3 月 31 日)

(1) 資産の部 (単位：円)			(2) 負債の部 (単位：円)		
大科目	中科目	金額	大科目	中科目	金額
流動資産	現金預金	28,075,480	流動負債	未払金	844,983
	前払費用	78,450		前受金	4,791,000
	差入引当金	307,440	流動負債合計		5,635,983
流動資産合計		28,461,370	負債合計		5,635,983
固定資産合計		81,795			
資産合計		28,543,165			
			(3) 正味財産の部 (単位：円)		
			大科目	中科目	金額
			諸積立金	会員事務関連	600,000
				研究活動関連	4,944,580
				法人化準備	15,000,000
			特別会計	基礎研究賞基金	2,307,920
			剰余金	通常会計	54,682
			正味財産合計		22,907,182
			負債及び正味財産合計		28,543,165

繰越処理計算書 (2010 年 3 月 31 日)

(単位：円)	
(1) 当期収支差額	54,682
(2) 資産特定額	0
(3) 次期繰越収支差額	54,682

繰越処理後正味財産 (2010 年 3 月 31 日)

(単位：円)	
会員事務関連	600,000

研究活動関連	4,944,580
法人化準備	15,000,000
基礎研究賞基金	2,307,920
当期繰越収支差額	54,682
合計	22,907,182

2009 年度決算報告書が正しく処理されていることを証明します。

2010 年 4 月 22 日

監事 杉村 領一 (印)

監事 菅原 俊治 (印)

【第 3 号議案】2010 年度事業計画

1. 会員 (2010 年度末予定)

2009 年度には 42 名の減少であったが、2010 年度には会員を増やすことを目標とする。

2. 会議

2.1 第 27 回通常総会 (2010-06-09)

2.2 理事会 (年 6 回以上開催)

2.3 評議員会 (年 1 回開催)

3. 事業活動

3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。読者モニタ制度を続け、編集作業の参考とする。学会員が投稿しやすい機関誌を目指し、レター論文やソフトウェア論文などをより広報し、投稿数の増加を図る。

3.2 大会

第 27 回大会を以下の要領で開催する。

日 時： 2010 年 9 月 13 日 (月)～15 日 (水) (大会)
 2010 年 9 月 11 日 (土)～12 日 (日) (併設企画)

会 場： 津田塾大学 小平キャンパス

大会委員長： 小川 貴英 (津田塾大学)

運営委員長： 新田 善久 (津田塾大学)

プログラム委員長： 細部 博史 (国立情報学研究所)

発表申込締切： 6 月 25 日 (金)

予稿原稿締切： 8 月 2 日 (月)

「今年の大会は変わります!」と銘打ち、種々の活性化策を計画している。その主なものは、研究会セッション・ソフトウェア論文セッション・学生セッションの創設、学生奨励賞の設定、大会同時投稿論文の制度の改善である。

3.3 講習会

最新のソフトウェア技術等に対する理解を会員に深めてもらうため、あるいはまた特定の基礎的技術を体系的に学び直せるような内容の「チュートリアル」を 3～4 件程度企画し開催する。また「大学基礎講座」も 2 件程度企画し開催する。

3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

- (1) 「ソフトウェアシステム」研究会 (主査： 廣津 登志夫)

活動方針に関する結論を出す

- (2) 「プログラミング論」研究会 (主査：五十嵐 淳)
国際シンポジウム 1 回開催 (2010-04-19～21)
サマースクール 1 回開催 (2010-09 大会併設)
ワークショップ 1 回開催 (2011-03)
コンピュータソフトウェア誌への論文推薦
- (3) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査：大沢 英一)
合同ワークショップ&シンポジウム (2010-10-27～29)
- (4) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査：後藤 真孝)
ワークショップ 1 回開催 (2010-12-01/03)
コンピュータソフトウェア特集号 (2011-05)
情報処理学会インタラクシオン 2011 協賛
- (5) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査：権藤 克彦)
コンピュータソフトウェア特集号 (2010-05)
ワークショップ 1 回開催 (2010-11 下旬)
- (6) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査：寺岡 文男)
ワークショップ 1 回開催 (2010-06-24～25)
コンファレンス 1 回開催 (2010-10 下旬)
コンピュータソフトウェア特集号 (2011-05)
- (7) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査：河野 健二)
ワークショップ 1 回開催 (2010-07)
シンポジウム 1 回開催 (2010-12 ごろ)
- (8) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：中島 秀之)
国際ワークショップ 1 回開催 (2010-05-10)
ワークショップ 2 回開催 (2010-08, 2010-09)

3.5 広報

本学会 Web ページを整備更新し、本学会会員メーリングリストを活用することにより、有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する。

3.6 法人化

本年度は学会の法人機関設計作業と法人化の際また法人化後に必要になる諸規程の策定作業を外注業者を使って実施する計画であり、その為の予算が予算案中に確保されている。機関設計や規程策定の過程では、会員、研究会、理事会、評議員会の各機関において説明と意見募集を実施し、また、並行して法人化の具体的手順を確定する予定である。その後、理事会決議と総会決議を経て来年度中を目処に法人組織に移行することを目論んでいる。

3.7 功労賞、フェロー、名誉会員

功労賞、フェロー、名誉会員を選考する。

3.8 賞の選考

論文賞、解説論文賞、高橋奨励賞、基礎研究賞を選考する。

3.9 会員増加策と経費削減

会員を増やすための方策と経費の適正化とについて検討する。経費（とくに機関誌の費用）の適正化とについて検討する。そのための小委員会を設置する。

【第 4 号議案】2010 年度予算

今年度の単年度予算としては収入 21,660,000 円、支出 22,670,000 円を計上し、会員数増加にむけて各事業がいっそう努力をすることを求めるものである。

まず、会員関係であるが、入会金・会費収入は、2010 年 3 月末日時点での正会員 936 名、学生会員 161 名、準会員 34 名、団体会員 7 団体、賛助会員 8 社 という実態を踏まえ、この数の維持を目標に納付率 90 % として算定した値である。会員関係業務費もこの数をもとに算出しているが、業務委託会社に変更されたため昨年度よりも減額している。大会については、今年度は東京開催予定であり、過去と同様の収支と見積もって算出した。研究活動費に関しては、論文賞 2 件およびソフトウェア論文賞 1 件の予算を計上している。機関誌に関しては、学会誌発行元である岩波書店と出版契約を結びなおし、無駄をおさえることで経費削減を行った。講習会については、テーマ選定や規模の拡大を練ることのでかなりの収入を見込んでいる。講習会業務費は収入の 5 割として算出した。また、法人化へ向けての実質的活動として法人化準備積立金から取り崩して 200 万円を収入に組み入れる。この予算の内訳は、学会の法人化と法人設立手続きにかかる提案・資料作成を委託するための委託業者への費用 150 万円および法人化以降の会員確保に伴う企画費用 50 万円となっている。

なお、今後の学会存続のためには学会活動の活性化、とりわけ新規会員獲得が急務である。

通常会計

(1) 収入の部	(単位：円)	(2) 支出の部	(単位：円)
勘定科目	金額	勘定科目	金額
入会金・会費収入	12,660,000	会員関係業務費	2,370,000
大会収入	1,200,000	研究活動費	150,000
機関誌収入	4,200,000	大会業務費	1,000,000
講習会収入	1,500,000	機関誌購入費	10,000,000
雑収入	100,000	機関誌業務費	250,000
当期収入小計	19,660,000	講習会業務費	750,000
		管理費	1,200,000
法人化準備積立金	2,000,000	事務所経費	1,400,000
取り崩し		事務所整備費	50,000
		人件費	3,400,000
		予備費	100,000
		法人化準備費	2,000,000
当期収入合計	21,660,000	当期支出合計	22,670,000

特別会計

(1) 収入の部	(単位：円)	(2) 支出の部	(単位：円)
勘定科目	金額	勘定科目	金額
前期繰越金(基礎研究賞基金)	2,307,920	基礎研究賞副賞	200,000
当期収入合計	2,307,920	(2 件)	
		当期支出合計	200,000

【2010 年度理事・監事】

2010 年度の理事および監事は次の通りである。(* 印は 2010 年度選出、無印は 2009 年度選出)

理事長	柴山 悦哉				
理 事	大和田勇人	亀山 幸義*	河内谷清久仁	河野 健二*	
	権藤 克彦*	紀 信邦	佐藤 周行	高橋 和子*	
	橋田 浩一*	平田 圭二	廣津登志夫*	胡 振江*	
	松本 健一	村田 真*			

監 事 杉村 領一 中谷 多哉子*

大学基礎講座・チュートリアル開催通知

大学基礎講座・チュートリアル	日 時	会 場	掲 載
「マルチメディア入門」	10 月 16 日 (土)	国立情報学研究所 20 階 ミーティングルーム 1・2	下記

チュートリアル「マルチメディア入門」開催のお知らせ

PC やネットワークの高速化により、各種のメディア情報を容易に扱えるようになり、インターネット上にはテキスト・静止画・動画・音データといった各種メディア情報があふれています。これからメディア情報の分析・解析をする場合には、各メディア情報の特性を理解し、それぞれに適応した処理を用いることが求められます。本チュートリアルでは、画像、音、テキストといったメディア情報の基本的な処理を中心に、検索等の応用まで、メディア処理に興味を持っているが、その知識はほとんどないといった初めての方にも分かりやすく解説していただきます。

講師には、本分野で研究教育活動をされている電気通信大学の尾内理紀夫教授をお招きしました。尾内氏はマルチメディアに関する著作もあり、わかりやすい授業をすることで定評のある方です。

受講対象は、メディア情報に興味を持つ大学生・専門学校生・高専生の方々、メディア情報に関する研究を始めようとする高専生・大学生・大学院生の方々、これから映像や音情報等を扱わなければならない社会人の方々などとなります。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

日 時 2010 年 10 月 16 日 (土)13:30-17:00

場 所 国立情報学研究所 20 階 ミーティングルーム 1・2

講 師 尾内 理紀夫 (電気通信大学情報理工学研究科総合情報学専攻 教授)

内容

チュートリアルの内容としては以下のものを想定しています。

- ・ マルチメディアとはいったい何なのか？
- ・ 画像メディア処理の基本
- ・ 音メディア処理の基本
- ・ テキスト処理の基本
- ・ 検索等の応用例

テキスト 学会で用意する資料を配布します。

定 員 30 名

参加費 学生会員：2,000 円 学生非会員：3,000 円

一般会員：5,000 円 一般非会員：7,000 円

当日入会頂いた方は、会員価格で御参加いただけます。

参加費用には学会側で用意する配布資料の代金が含まれます。

参加申し込み方法 以下の参加申込みフォームに必要事項をご記入の上、subject を "JSSST tutorial" として、申込み先 (jssst-tutorial@cs.brl.ntt.co.jp) までメールをお送りください。

氏名 (ふりがな)：

所属：

電子メール：

会員区分： 会員・非会員 (該当する部分を残し、不要な部分を消去してください)

学生区分： 学生・一般 (該当する部分を残し、不要な部分を消去してください)

会員番号： (入会手続き中、および当日入会申し込みの場合は手続き中とご記入ください)

問い合わせ先

講演の内容、申し込み手続き、空席状況などについては、以下にお問い合わせ下さい。

青柳滋己 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

電子メール: jssst-tutorial@cs.brl.ntt.co.jp

チュートリアル案内 Web ページ: <http://www.jssst.or.jp/>

教 員 募 集

慶応義塾大学理工学部情報工学科教員募集のお知らせ

公募人員 専任講師または准教授 2 名
専門分野 情報工学分野
着任時期 2011 年 4 月 1 日
応募締切 2010 年 8 月 27 日 (金) 必着
問 合 先 理工学部情報工学科主任
岡田謙一 (Email: okada@z2.keio.jp)
(詳細は、<http://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/index.html> をご覧
ください。)

公募人員 助教 (有期 , 最長 3 年) 1 名
専門分野 情報工学分野
着任時期 2011 年 4 月 1 日
応募締切 2010 年 8 月 27 日 (金) 必着
問 合 先 理工学部情報工学科主任
岡田謙一 (Email: okada@z2.keio.jp)
(詳細は、<http://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/index.html> をご覧
ください。)

以上